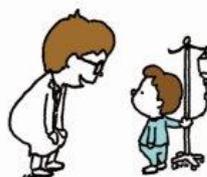


点滴治療を受ける場合にご留意いただきたいこととお願い



点滴治療は、静脈内にカテーテルという管や点滴針を挿入して液体の薬を投与する治療で、使用する薬剤は患者さんの病状や目的により様々です。

小児は、①血管が細い、②点滴部位の安静を保つことが難しい、③痛みなどの症状を言葉で訴えられない等の理由で、成人に比べて点滴もれ（血管外漏出）などの合併症が多いことが知られています。

治療中は合併症が起こらないよう注意深く対応いたしますが、患者さんやご家族のみなさまに知っていただきたいことや注意していただきたいことについて以下に記します。

より安全に治療を受けていただくために、ご理解とご協力をお願いいたします。

●点滴治療中に起こりうる合併症

① 血管外漏出（点滴もれ）

薬液が血管の外にもれるために、カテーテルや針が入った部位が赤くなったり腫れたり、腕全体が腫れることがあります。漏れた量や薬液の成分により程度が異なります。まれに、皮膚の強い損傷（壊死）が起きることがあります。

② 感染症（静脈炎等）

点滴をしている部位から細菌が入り、血管や周囲に炎症を起こすことがあります。また、全身性の感染症（敗血症）になることもあります。

③ 皮膚トラブル

点滴の固定で使用する（点滴シーネや医療用テープ等）により皮膚が赤くなったりきずになったり（皮膚剥離やびらん）することがあります。

●点滴治療中の管理

点滴治療中は、看護師が定期的に刺入部（針が入っている部位）を観察し、症状がないかを確認します。合併症を早期に発見するために、眠っている時も確認しますので、ご理解とご協力をお願いします。

合併症に気づいた場合は、担当医師に報告し、症状に合わせた対応をいたします。

●患者さんにご家族へのお願い

点滴治療中は、出来るだけ点滴をしている部位の安静にご協力をお願いします。また、ご家族におかれましては、点滴をしている手足の腫れ、患者さんが痛がる・動かさないなど、いつもと違うことにお気づきの場合は、遠慮なく医療者にお声かけください。

ご不明な点がありましたら、いつでも医療者にお声かけください。